

<b>〔科目名〕</b> 学習導入演習	<b>〔単位数〕</b> 2単位	<b>〔科目区分〕</b> アカデミック・コモン・ベーシックス
<b>〔担当者〕</b> 大森 史博 Ohmori Fumihito	<b>〔オフィス・アワー〕</b> <b>時間:</b> 授業開始時に指示する <b>場所:</b> 613 研究室	<b>〔授業の方法〕</b> 演習・講義
<b>〔科目の概要〕</b> <p>           学びにおける「問い」という技能の意味を吟味することにより、大学での学習を始めるにあたり必要不可欠なアカデミック・スキルの理解と習得を目指す。自分で「問い」を見つけ出し、探求をすすめることは楽しい。自分の経験と関心に応じて「問い」を定め、情報や資料を吟味し、考察を深め、議論を交わし、「答え」を求める。そんなふうにより、大学生活を楽しむための、学びの技(スキル)を身につけることが本演習のねらいである。         </p> <p>           聞くこと、話すこと、読むこと、書くことは、相互に補い合い、増幅し合うことで、われわれが事象を理解したり、考えたりすることに役立っている。ノートテイキングやメモを活用すること、質問すること、資料を読んで要約すること、読解すること、自分の気づきを文字にすること、といった学びの技を実践的に習得する。         </p>		
<b>〔授業科目群〕・他の科目との関連付け〕・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか〕</b> <p>           この授業では、具体的に学びのスタイルを捉えなおし、メモやノートの方法、図書館の利用、ネットワークの活用、文献や資料の収集、整理の仕方、探求的対話と議論の実践、レポート作成の作法、引用や要約の仕方、等々を習得することを目指す。ことあらためて、勉強の仕方を問い返すことによって、これから始まる大学の授業や自分の学習は、ますます興味深いものとなるだろう。         </p> <p>           どのような仕方で、どのように勉強するのかという方法やスキルは、その人その人が徐々に身につけ、改良を加えてゆくものである。とはいえ、学生生活の中心が「学ぶこと」であるかぎり、どのような学問領域、研究対象に向き合おうとするにせよ、基礎的な学習のスキルを身につけ、自分の学びのスタイルを再構築することは、この春あらたにスタートを切るにあたり必要不可欠なトレーニングである。ともに考えることを楽しみながら授業をすすめたい。         </p>		
<b>〔科目の到達目標(最終目標・中間目標)〕</b> <p>           中間目標         </p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 図書館、授業、メモ、ノート、電子機器、インターネット、等々の学習のためのツールを使いこなすこと</li> <li>(2) この授業、および大学の様々な授業のスタイルに慣れ親しむこと</li> <li>(3) 問うことの意味を理解し、探求的に考える習慣を身につけること</li> </ol> <p>           最終目標         </p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(4) レポートや小論文を作成するための技法を身につけること</li> </ol>		
<b>〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕</b> <p>           レポート作成における注意事項を学ぶことができる、課題を通して深く考えるところ、大学生活で必要な文章力を身につけられる、といった点を評価する声が寄せられた。また、話し方に熱意があるという声もあった。こうした声を励みに、さらなる改善をつづけていく。その一方で、話が長い、個人作業の時間に教員が話を始めるので作業が進まなかったという指摘があった。この指摘は、授業中の作業に必要な時間が足りないということであるから、あらためて授業の組み立てを工夫し、宿題を科すなど作業に充てる時間を確保できるようにする。受講者と向き合い、読むこと、書くこと、聞くこと、語ることという、学びの力を身につける場として授業が機能するよう、さらなる改良をかさねていきたい。         </p>		
<b>〔教科書〕</b> 使用しない。適宜プリントを配布する。		
<b>〔指定図書〕</b> なし		

<p><b>〔参考書〕</b>  『大人のための国語ゼミ』野矢茂樹、山川出版社、2017年  『学術書を読む』鈴木哲也、京都大学学術出版会、2020年  『論理と言葉の練習ノート』川添愛、東京図書、2021年  その他、授業内に紹介する。</p>	
<p><b>〔前提科目〕</b>  なし</p>	
<p><b>〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等)</b>    授業のなかでの活発な活動や発言(50%)、最終レポート(50%)</p>	
<p><b>〔評価の基準及びスケール〕</b>    A:80点以上  B:80点未満70点以上  C:70点未満60点以上  D:60点未満50点以上  F:50点未満</p>	
<p><b>〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕</b>    大学に入学するまでの勉強と入学してからの勉強は、すこし違います。そこで、自分の学習のスタイルについて、ちょっと立ちどまって考えてみましょう。「学ぶ」という、これまでずっとあたりまえのようにしてきた自分のスタイルを振り返ってみると、その方法を再構築するための発見や気づきがあるかもしれません。  あたらしい知識をたくさん見聞きし、習い覚えることは、もちろん面白いし達成感があります。それだけではありません。これからは、まだ「答え」が見つかっていないこと、あたりまえだと「答え」を決めてかかってきたことにも探究の目を向け、考え、調べ、学んでいくこととなります。あらたな問いを見出すことと、その問いに答えることは、ある意味では表裏一体です。そのように、自分で考えることを一緒に楽しんでいきましょう。</p>	
<p><b>〔実務経歴〕</b>  該当なし</p>	
<p>授業スケジュール</p>	
第1回	<p>テーマ(何を学ぶか):イントロダクション  内 容:この授業の趣旨と内容、具体的な作業の予定、評価の方法、大学と図書館    教科書・指定図書</p>
第2回	<p>テーマ(何を学ぶか):作文から論文へ  内 容:自己紹介カード、メモ、ノート、端末、中間レポート(一次)テーマと締切りについて    教科書・指定図書</p>
第3回	<p>テーマ(何を学ぶか):レポート作成の方法①  内 容:構想、問いの提起、書式、引用と参照、対話と質疑応答    教科書・指定図書</p>
第4回	<p>テーマ(何を学ぶか):レポート作成の方法②  内 容:下書き、目次、参考文献、ネット検索と文献資料    教科書・指定図書</p>

第5回	<p>テーマ(何を学ぶか):引用と要約①</p> <p>内 容:レポート作成のための引用と要約の練習</p> <p>教科書・指定図書</p>
第6回	<p>テーマ(何を学ぶか):引用と要約②</p> <p>内 容:レポート作成のための引用と要約の練習</p> <p>教科書・指定図書</p>
第7回	<p>テーマ(何を学ぶか):中間レポート(二次)のために</p> <p>内 容:推敲すること、再考すること、口頭発表について、中間レポート(二次)テーマと締切りについて</p> <p>教科書・指定図書</p>
第8回	<p>テーマ(何を学ぶか):口頭発表①</p> <p>内 容:質疑応答</p> <p>教科書・指定図書</p>
第9回	<p>テーマ(何を学ぶか):口頭発表②</p> <p>内 容:質疑応答</p> <p>教科書・指定図書</p>
第10回	<p>テーマ(何を学ぶか):図書館見学</p> <p>内 容:図書館の高度な利用の方法について</p> <p>教科書・指定図書</p>
第11回	<p>テーマ(何を学ぶか):レポート課題のために</p> <p>内 容:先行研究と資料探索、タイトルとサブタイトル、序論と結論、引用、要約、注記、参考文献一覧</p> <p>教科書・指定図書</p>
第12回	<p>テーマ(何を学ぶか):レポート課題への対策①</p> <p>内 容:メモやノートの活用、推敲と再考、問いが向かうところ、探求と解明</p> <p>教科書・指定図書</p>
第13回	<p>テーマ(何を学ぶか):レポート課題への対策②</p> <p>内 容:メモやノートの活用、推敲と再考、問いが向かうところ、探求と解明</p> <p>教科書・指定図書</p>
第14回	<p>テーマ(何を学ぶか):総括と講評①</p> <p>内 容:質疑応答</p> <p>教科書・指定図書</p>
第15回	<p>テーマ(何を学ぶか):総括と講評②</p> <p>内 容:質疑応答、授業の趣旨と要点をふり返る</p> <p>教科書・指定図書</p>
試験	